

スチバーガの今後の展望

スチバーガの多様な作用機序に基づく治療法の開発が期待されている



板橋 道朗先生

非臨床試験において、スチバーガは

- 血管新生阻害作用¹⁻³⁾
- 腫瘍免疫抑制の解除^{1,4,5)}
- 腫瘍増殖抑制作用^{1,2,6)}
- 転移抑制作用^{2,7,8)}

を介して抗腫瘍効果を発揮することが報告されています。

これら多彩な作用機序に着目したスチバーガ治療への期待はいかがでしょうか。

1) Zopf D, et al. Cancer Med. 2016; 5: 3176-85.

本論文の著者のうち7名はバイエルの社員である。

2) Wilhelm SM, et al. Int J Cancer. 2011; 129: 245-55.

本論文の著者全員がバイエルの社員である。

3) Zhao Y, et al. Oncologist. 2015; 20: 660-73.

4) Matsushime H, et al. Cell. 1991; 65: 701-13.

5) Abou-Elkacem L, et al. Mol Cancer Ther. 2013; 12: 1322-31.

本研究はバイエルの資金により行われた。本論文の著者のうち1名はバイエルの社員である。

6) George S, et al. J Clin Oncol. 2012; 30: 2401-7.

本研究はバイエルの資金により行われた。本論文の著者にバイエルより研究資金を受領している者が含まれる。

7) Schmieler R, et al. Int J Cancer. 2014; 135: 1487-96.

本論文の著者のうち9名はバイエルの社員である。

8) Takigawa H, et al. Cancer Sci. 2016; 107: 601-8.

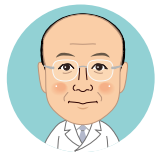
スチバーガと他の薬剤の併用療法に注目しており、実臨床でも効果を発揮してくれるよう期待しています。



沖 英次先生



山崎 健太郎先生



瀧井 康公先生

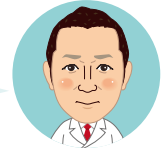
スチバーガ治療の効果を実感しているからこそ、今後も使用し続ける



板橋 道朗先生

最後に、スチバーガを使い続けている理由をあらためてお聞かせください。

治療効果を得られている患者さんがいると実感できていることが、スチバーガを使い続ける最大の理由です。



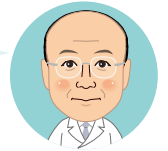
山崎 健太郎先生

同感です。これまでにスチバーガを有効に使える患者さんがいたということは、これからも工夫次第で治療効果を引き出せるということです。スチバーガは大腸癌で唯一、単剤で使用できるチロシンキナーゼ阻害薬(TKI)であり、新たな使用方法があるかもしれないという点でポテンシャルが高いと感じています。



沖 英次先生

やはり治療効果を得られる患者さんがいるということが大きいですね。リスク・ベネフィットの関係でいえば、スチバーガ治療マネジメントの習熟度が高まるにつれてリスクのコントロールが可能になり、それと同時にベネフィットを実感する機会が増えてきたのですから、今後も引き続き使用したいと思います。



瀧井 康公先生

総括

切除不能進行再発大腸癌に対するスチバーガ治療においては、「痛みが出たら休薬」といった簡単なポイントを押さえた副作用マネジメント、患者状態に応じた初回投与量の工夫などを行ない、三次治療以降の治療として使い切ることが重要です。また、スチバーガは大腸癌治療で唯一使えるTKIで、FTD/TPIとは異なる多様な作用機序を有しており、三次治療以降の治療において必要な薬剤と考えます。治療効果を実感できるというのが、スチバーガを使い続けたいという先生方の一番の原動力であり、7年間の使用経験で得られた自信がそれを支えていると感じました。



板橋 道朗先生